

# ま な び や 目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.54 2020年2月19日発行 発行人 関野祐二  
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804  
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: [covenant-seminary@nifty.com](mailto:covenant-seminary@nifty.com)

主の聖名を讃美いたします。

オリオン座の一等星ベテルギウスが、昨年末から暗くなって今や二等星に。いちおう「変光星」がテリトリーなので、夜チャペルと休憩を終えて別館三階自宅へ戻る時、夜空を見上げて光度を確かめるのが日課です。これが超新星爆発の予兆なのか、そうならいつ起こるのか、誰にもわかりません。640光年彼方の星ですから、すでに星自体が存在しないかも、と思えば、「今」という瞬間の不思議さ、いとおしさが倍加します。宇宙は人を哲学者にする... 立春をとうに過ぎ、中目黒キャンパスのあちこちに春の予感を見る日々。どうやら花粉も飛び始めたようですね。

「明日のことを誇るな。一日のうちに何が起こるか、あなたは知らないのだから」(箴言27:1)

校長 関野祐二

## ● シカゴこぼれ話

堅い話で恐縮ですが、聖契神学校を包括する(宗)日本聖契キリスト教団の親は、北米カペナント教会(Evangelical Covenant Church: ECC)で、神学校創立も校舎もすべてECCのお陰。本部は米国シカゴにあり、運営するノースパーク大学(1月2日に召天した1前校長の出身校)も隣接するノースパーク神学校(宣教学のC先生や説教B/敬虔主義のP先生も学びました。以下、NPTS)も同地に。以前から、現地を訪問して具体的交流の足がかりとする必要を感じていました。時満ちて、1月27日~2月8日、極寒の(暖冬でしたが)Midwinter Conference(全米900のカペナント教会教職者1300名の集まり)へ。P先生が現地で迎え、NPTS宣教学をオンライン受講中のO先生(2年後にC先生の後継)が同行との贅沢な布陣(現地では両脇通訳の恩恵に)。ECC代表やスタッフとの交流、NPTS校長との深い話し合い、宣教学特別講義担当(依頼は前日夜!)、日本人教会での説教など実り多かったです。現地から日本へ伝えられたFB画像は、相撲(文化プレゼンでO先生と対戦パフォーマンス。一瞬で突き倒し負け(泣))やシカゴピザ体験、観光地(ミシガン湖畔の博物館とプラネタリウム!)自撮りなどなど。帰国したら、校長室扉に「お帰りなさい」の怪しげな(?)横断幕と、金の子牛(折り紙製で控えめ)が。ハハハ、さては赤ペンのさばきが待ちきれなかった様子。石板破壊の代わりに、シカゴ名物缶入りポップコーン(キャラメルコーティング)を、そっと学生ラウンジに置きました。

## ● ああ不用品処分

いったいどうなるのか、呆然としました。食堂いっぱいに集結した不用品の山です。そもそもの始まりは、図書室の本を整理して書棚を増設しようとのプラン。とりあえずは要らない本を、倉庫代わりの旧ボイラー室(卒業生A兄の尽力で十数年前に設備撤去)へ移動しようとしたら、なんとそこは不用品満杯状態で(いつの間に!?)どうにもなりません。ならばボイラー室を片付けようと在校生の手を借りて中身を出したら、食堂いっぱいになったという訳(正体不明のへ

んなモノも。いったい誰?)。思い返せば、校長着任後17年近く、一度もこれほどの大掛かりな不用品処分はして来なかったのです。精根尽きて年を越し、重い腰を上げて処分業者選定へ(親切で安いクリスチャン業者が見つかりました)。2月11日に教団年会で食堂を使うため、タイムリミットは明確です。多額の費用がかかりますが、17で割り算すればこんなもの。そして決行日はリミット五日前、ぎりぎりでした。何と、校長はシカゴ滞在中ゆえ、涼しい(雪模様で寒い)顔で不在(狙ったわけでもないのですが...)。現地で「処分完了」のメールを受信し、安堵して8日に悠々帰国したら、食堂は元通りどころか、すでに年会用のセッティングへと変貌していたのでした。教訓:不用品にはお金がかかる、捨てるには手間がかかる、終わるまでは気にかかる。

## ● 雑談力、面談力、制球力

ポッカリ二週間を飛び越えたら、あっという間に神学校の年度末一ヶ月前。年明けから開始し、中断していた個人面談は、再開したのも束の間、もうすぐ終了です。面談といっても、病院の初診とは違い、ふだん教室や廊下で交わす「雑談」の延長線上にあります。雑談とは聞こえが良くないのですが、どうしてもよい会話に見えてそうではなく、相手を知る絶好のチャンスですし、こちらから伝えたいことを伝える場でもあるでしょう。「雑談力」向上の秘訣は、相手の話したいことを聞く、相手の聞きたいことを話す、この二つだけ。なんとか主に用いられる伝道者や働き人になりたくて学びに来ているわけですし、こちらとしてもそれをお助けするため何とかしようとしているのですから、お天気や気温から始まって、体調、家族、仕事の悩み、住居、政治経済、新聞記事、そして教会やこれからの道など、ありとあらゆる切り口でキャッチボールをします。これが実に楽しい。校長室で向かい合う面談は、その集大成と言ってもいいでしょう。クライアントの背後頭上にある時計をチラチラ見ながら、三十分という限られた時間をアレンジし、投げかけるボールのコースや球質をコントロールします(わざと暴投してみたり、敬遠したりも)。神学生二年目の冬、面談で教師から「君は牧師には向いてない」とズバリ言われ、それをバネに三十年続けて来た自分を振り返りつつ、「まだ直球ストライクを投げる制球力と勇気はないな」と思うこの頃です。ど真ん中に速球を投げてほしい方、サインを出してくださいね(いないかな)。

## ● 行く卒業生、来る新入生、留まる在校生

今年度の卒業生は、基礎科が2名、専門科が5名です。比較宗教/日本教会史のK先生も退任されます(次に声の大きさをトップに躍り出るのは誰?)。どうぞ独特の明るさと充実感に満ちた卒業式にぜひおいでください(司式は例年通りK先生にお願いしました)。新入生は今、願書受付の最終段階。送り出す以上の方々が加えられたら嬉しいです。基礎科から専門科への進級は6名。これからが学びの本番ですよ。在校生も、新入生に良き背中を見せてくださいね。新年度から、基礎科の「聖書解釈学入門」(マイルドなYr教務主任)が、まずは二年間の選択科目でスタートします。これからは、準備してから専門科☆なしの聖書解釈学(シゴキのS)へおいでください。入学式は、前期授業数確保の関係で、やむなく水曜夜(1日)。2日(木)から授業が始まります。

## ● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 卒業する7名のこれからの働き。在校生70名の後期学びが最後まで守られるように。4月より新規に学ぶ正規生、聴講生が多く与えられ、2020年度前期を迎えられるように。
- ・ 神学校運営が、多くの方々の祈りと支援により、安定的に守られ推進されるように。